

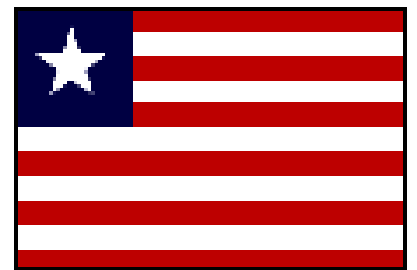
リベリア共和国話題集

【国名】

- アメリカから戻った解放奴隷が建国し、1847年、アフリカ最初の共和国として独立。
- 国名の「リベリア (Liberia)」は自由 (Liberty) に由来。首都モンロビアは、解放奴隷のアフリカ移住を支援した当時の米国のモンロー大統領にちなんでいる。

【国旗】

- 米国の星条旗を手本としており、赤と白11本の線は独立宣言に署名した11人を表している。
- 赤は勇気を、白は誠実さを象徴する。



リベリア国旗

【国土】

- 国土は日本の約3分の1（約11万km²）。人口は約505万人。海岸地帯は熱帯雨林が広がり、内陸部は丘陵地で、北部は山岳地。



【豊富な天然資源】

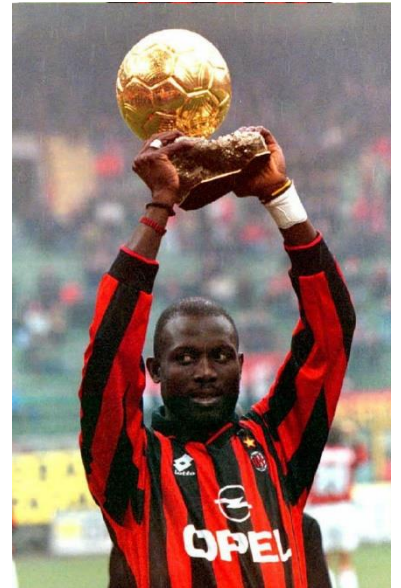
- 鉄鉱石、天然ゴム、ダイヤモンドなどを産出。かつて天然ゴムの生産量はアフリカ第一位であった。西アフリカの半分近くの森林がリベリアに集中。持続的な資源開発が課題。



伐採されたリベリアの森林
© CI/Photo by John Martin)

【大統領はアフリカ初のバロンドール】

●ジョージ・ウェア大統領は、フランス、イタリア等で活躍した元プロサッカー選手。1995年にアフリカ人初となるバロンドール（欧州年間最優秀選手）とFIFA（国際サッカー連盟）年間最優秀選手賞をダブル受賞した。



【アフリカ初の民選女性大統領】

●サーリーフ前大統領は、アフリカ初の民選女性大統領。2006年に就任し、2011年に再選され、大統領を2期務めた。

●2011年、リベリアの平和構築、社会・経済開発の促進、女性の地位向上への貢献が認められ、ノーベル平和賞を受賞。2015年には、「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム（WAW！2015）」で基調講演を行った。



【首都の道路名が「ジャパン・フリーウェイ」】

- 2019年2月、リベリア政府は、ODAで復旧工事を行っているモンロビア市内の道路を日本への感謝を込めて「ジャパン・フリーウェイ」に改称。
- 2021年7月完工。



出典：JICA

【JICA研修員が「エボラ・ヒーロー」】

- 2015年7月、サーリーフ大統領（当時）が表彰したエボラ対応医療関係者のうちの1人であるウィルモット・フランク医師は、2010年に東京でのJICA研修に参加。同医師は、国際支援を待たずに隔離病棟を造り、地域のリーダーとして患者に向き合ったことが評価された。



州保健局内の事務所で NGO 職員と調整するフランク医師

出典：JICA

【エボラ対策で派遣された日本人専門家】

- 2014年に起きたエボラ出血熱の流行に際して、我が国からは延べ8名の日本人専門家がリベリアに派遣された。2015年訪日の際、サーリーフ大統領（当時）は、リベリアに派遣された専門家も所属する国立医療研究センター及び国立感染症研究所を訪問。

【リベリアの少女、日本で治療】

- リベリア人少女マーサ・ターケットさんは、内戦から避難していたガーナの難民キャンプで暴行を受け、歩行困難に。



美木さんとマーサさん ©読売新聞

国境なき医師団で活動中

だった看護師・美木（みき）

朋子さんが私費でマーサさんを日本に招待し、マーサさんは車いすで動けるまでに回復。2007年のサーリーフ大統領訪日時、マーサさんは安倍総理夫人と会談するとともに、麻生外務大臣主催のレセプションに同席。2008年にリベリアに帰国し、その後米国に留学した。

【その他日本との関係】

- リベリアは、1961年に日本と外交関係を樹立。1970年の日本万国博覧会（大阪万博）に際しては、記念切手がリベリアで発行された。



リベリアで発行された記念切手

出典：img5.blogs.yahoo.co.jp

- 船籍取得にかかる手数料が、パナマと並び廉価であることから、多くの日本企業がリベリア船籍の船舶を保有している。日本の外航船舶の約6%がリベリア船籍を保有。

(了)